

第1日目 5月21日(土) A会場

9:00	登録
------	----

9:40 A-01 [分科会] ポスト・ユートピアの民族誌
[代表者] 田沼幸子

報告1	小さな、大きな物語—キューバの調査報告のための試論	田沼幸子	大阪大学
報告2	ユートピアの忘れ得なさ	磯田和秀	成城大学
報告3	ポスト社会主義ロシアにおける呪術の復興	藤原潤子	日本学術振興会
報告4	ニカラグア「革命」芸術とその後—1980年代、壁画運動の周辺から	佐々木祐	京都大学
報告5	ポスト・ユートピアにおける民主化と地方分権—ベトナムの事例を中心に	加藤敦典	大阪大学
報告6	現在のなかの未来—フランスのあるアソシエーションにおける秩序、時間、移行の概念	中川理	日本学術振興会
	コメンテーター	小田亮	成城大学

12:00	昼食
-------	----

13:00 特別シンポジウム [特別シンポジウム] 北方研究からみえる人類学の今日的課題
[代表者] 煎本 孝

報告1	北方研究の展開	煎本孝	北海道大学
報告2	研究の社会性、人道性について	加藤忠	北海道ウタリ協会
報告3	アイヌ語研究の課題と展望	佐藤知己	北海道大学
報告4	ポスト社会主義時代の北方人類学研究	佐々木史郎	国立民族学博物館
報告5	チュクチ研究からみた人類の生態と地球環境問題	池谷和信	国立民族学博物館
報告6	北方先住民と開発—カナダ・イヌイトの場合	岸上伸啓	国立民族学博物館
報告7	文化復興から読む宗教と自然の意味—ハンティ、サハの事例から	山田孝子	京都大学
報告8	心の文化・生態学的基盤	山岸俊男	北海道大学
報告9	アイヌ・北方文化研究と北海道大学の役割	中村睦男	北海道大学

15:20 A-02 [分科会] 戦争と軍隊の研究<が／を>変える文化人類学
[代表者] 田中雅一

報告1	なぜ、いま戦争と軍隊か？—在日米軍研究からみえてくるもの	田中雅一	京都大学
報告2	韓国社会と徴兵制—徴兵制度をめぐる認識と議論の現状	金柄徹	亜細亜大学
報告3	「愛国者にして国外脱走者？」—非アメリカの中流社会を求める在外駐留軍人の意識と実態	エイムズ・クリストファー	ミシガン大学
報告4	英国陸軍グルカ旅団におけるヒンドゥー教—国境を越える軍事労働雇用と軍隊宗教を考える	上杉妙子	専修大学
報告5	「基地の町」における現地人女性たちの声	宮西香穂里	京都大学
報告6	社会と軍隊との関係—シンガポールにおける女性兵士と軍隊	福浦厚子	滋賀大学
報告7	戦争博物館の文化人類学—遊就館から問う日本近現代史	丸山泰明	大阪大学

第1日目 5月21日(土) B会場

9:00		登録	
9:40	B-01 [分科会] 地域と結ぶ人類学 [代表者] 橋本和也		
	報告1 地域性の生産・維持とかかわる人類学—分科会趣旨説明	橋本和也	京都文教大学
	報告2 市民活動を担う—愛知県日進市の市民活動への関わり	斉藤尚文	中京大学
	報告3 地域の営みと行政のはざま—人類学的営みの意味	馬場雄司	三重県立看護大学
	報告4 博物館と大学をつなぐ—博物館実習のあり方をめぐって	五十嵐真子	神戸学院大学
	報告5 協働作業の試み—京都府宇治市における実践の問題点と可能性	森正美	京都文教大学
	コメンテーター	坂本博司	宇治市歴史資料館
	コメンテーター	宮内泰介	北海道大学
12:00		昼食	
13:00	B-02 [分科会] 援助実践の人類学—その距離感の模索 [代表者] 関根久雄		
	報告1 援助実践と人類学の距離—総論と問題提起	関根久雄	筑波大学
	報告2 開発援助実務者の文法	鈴木紀	千葉大学
	報告3 開発人類学者の作法—社会調査をめぐって	佐藤寛	アジア経済研究所
	報告4 JICA短期専門家・調査団員としての業務経験から—開発援助実務者と人類学者の「距離」はどこから来るのか?	角田宇子	亜細亜大学
	報告5 “途上国”という思想—「技術移転」プロジェクトの現場から	内藤順子	九州大学
	コメンテーター	馬淵俊介	国際協力機構
	コメンテーター	玉置泰明	静岡県立大学
15:20	B-03 [分科会] 資源と制度—その過去負荷性をめぐって [代表者] 松井健		
	報告1 イラン系遊牧民の生業経済と政治過程	松井健	東京大学
	報告2 日本と中国における土地資源管理制度の過去と現在—「共」と「私」の記憶	菅豊	東京大学
	報告3 土地に堆積する過去—インドネシア・中部フローレスの事例から	杉島敬志	京都大学
	報告4 ものを作る—人・もの・資源	関本照夫	東京大学
	コメンテーター	内堀基光	東京外国語大学
17:00	B-04 子ども間の社会化—学校教育が普及するバングラデシュ農村社会を事例に	南出 和余	総合研究大学院大学
17:20	B-05 手織り布生産と社会的ステータス—バングラデシュのジャムダニ産業を中心として	岡田菜穂子	広島大学
17:40	B-06 ベトナム・コホー族チル集団の婚礼—その参加者の役割	本多 守	東洋大学

第1日目 5月21日(土) C会場

9:00		登録	
9:40	C-01 ネイティブ・ページェントにおける羊の屠殺と解体の現代的意味—ナウァホ・インディアン社会における伝統技術の表象	谷本 和子	関西外国語大学
10:00	C-02 アフリカ系アメリカ人の社会宗教運動にみる新たな動向—オリシャ崇拝を通じたナイジェリア人との宗教・文化交流	小池 郁子	日本学術振興会／ 京都大学
10:20	C-03 アメリカ・銃社会の人類学的研究—暴力研究によるアプローチ	高泉 拓	北海道大学
10:40	C-04 呪術と「予め定められていたこと」	川田 牧人	中京大学
11:00	C-05 呪術とくそうではなかった>可能性—フィリピン地方都市の病者実践より	東 賢太郎	日本学術振興会
11:20	C-06 呪術について	関 一敏	九州大学
12:00		昼食	
15:20	C-07 [分科会] 心の実験とフィールドワーク [代表者] 煎本 孝		
	報告1 心の実験とフィールドワーク	山岸俊男 亀田達也 煎本孝	北海道大学 北海道大学 北海道大学
	報告2 西シベリア地域の通過儀礼、変化、集団維持機能	木村美希	北海道大学
	報告3 伝統社会の変化と生存— インド東部の鍛冶屋に見られる社会的相互依存関係	齋藤貴之	北海道大学
	報告4 オシラサマ信仰に関する人類学的研究—下北におけるフィールドワークから	上原周子	北海道大学
	報告5 小型沿岸捕鯨社会の規範と捕鯨者の心	山口未花子	北海道大学
	報告6 実験で見る心と文化1—相互作用と心の文化差	仲間大輔	北海道大学
	報告7 実験で見る心と文化2—社会的適応方略としての「東アジア型」心理傾向	鈴木直人	北海道大学
	報告8 実験で見る心と文化3—日本人の集団主義を支える制度と心	竹村幸祐	北海道大学

第1日目 5月21日(土) D会場

9:00		登録	
9:40	D-01 参加型開発を通じた女性のアイデンティティ形成の過程—北インド農村社会を事例として	菅野美佐子	総合研究大学院大学
10:00	D-02 チャイからコーラへ—北インド農村における婚姻儀礼の変化	八木 祐子	宮城学院女子大学
10:20	D-03 書きことばか、話しことばか(その2)—インド・ゴア教会のコーンクニー語正統言語化の試み	松川 恭子	奈良大学
10:40	D-04 複製技術時代の礼拝空間—南インド都市世界に映画館がもたらしたものの	桑原 知子	九州大学
11:00	D-05 難民社会の新たなこだま—インド・ダラムサラ在住チベット難民の現代チベット音楽	山本 達也	京都大学
11:20	D-06 西藏(チベット)に生きる穆斯林(ムスリム)たち	瀟 紅燕	高知大学
12:00		昼食	
14:00	D-07 [分科会] 人間はどのようにして眠ってきたか — 睡眠への文化人類学的接近 [代表者] 重田眞義		
	報告1 睡眠文化研究の視座	重田眞義	京都大学
	報告2 睡眠環境の各国比較—眠りの「しつらい」と「よそおい」	鍛冶恵	睡眠文化研究所
	報告3 夢の民族誌の可能性	豊田由貴夫	立教大学
15:20	D-08 宗教および民族をめぐる表象に関する理論的諸問題について	丹羽 泉	東京外国語大学
15:40	D-09 現代イスラーム社会における音楽—宗教復興と原理主義的運動のなかで	青柳 孝洋	岐阜大学
16:00	D-10 大興安嶺のトナカイ・エウエンキの「最後のシャーマン」	クネヒト・ペトロ	南山大学
16:20	D-11 韓国朝鮮の「旧慣」と実学派・在京士族層	太田 心平	日本学術振興会
16:40	D-12 韓国における巫俗の変容をめぐって—ソウルの事例を中心に	浮葉 正親	名古屋大学
17:00	D-13 「上海通り祝祭」にみる土地とイベントの結びつき—韓国・釜山華僑街の事例から	林 史樹	神田外語大学
17:20	D-14 サッカーの普及と実践の過程にみるナショナリズムとローカリズム—西帰浦市(韓国済州島)の事例より	金 明美	九州大学

第1日目 5月21日(土) E会場

9:00	登録		
9:40	E-01	刺繍屋事業の展開—ウズベキスタン・ブハラ州からの一例	今堀 恵美 東京都立大学
10:00	E-02	クルアーン朗読の現代的意味—カザフスタン北部農村における祖先とのつながりの表現	藤本 透子 京都大学
10:20	E-03	ポスト社会主義圏における都市空間の変容—モンゴル国・ウランバートル市のゲル地区	西垣 有 大阪大学
10:40	E-04	雪害後のモンゴル遊牧民の食と毛髪からの微量成分の摂取状況	石井 智美 酪農学園大学
11:00	E-05	ポスト社会主義期南シベリアに於けるエスニシティ・多文化主義教育・公共性	渡邊 日日 東京大学
12:00	昼食		
15:20	E-06	リスクとディスカルテの関係についての—考察—フィリピン・パナイ島・イピサン町の事例から	小林 孝広 早稲田大学
15:40	E-07	トンガ王国エウア島民の土地認識の変化—王族地の土地登記をめぐる農民の状況	森本 利恵 総合研究大学院大学
16:00	E-08	ミクロネシア連邦ヤップ州の海域紛争における「伝統と慣習」—多元的法体制論の再検討	則竹 賢 日本学術振興会
16:20	E-09	ミクロネシア・パナバ島における鉱業開発と現地社会—コミュニティ・メンバーシップの変容を中心に	小林 誠 東京都立大学
16:40	E-10	パラオ共和国における首長位称号継承儀礼の現在	飯高 伸五 東京都立大学
17:00	E-11	「白人」としての「日本人」—ヴァヌアツ・アネイチュム語「nuputooga」をめぐる	福井栄二郎 神戸大学
17:20	E-12	ニューカレドニアのメラネシア人解放運動におけるカナク文化的アイデンティティの探求	江戸 淳子 杏林大学
17:40	E-13	都市中間層の儀礼交換に見るサモア社会の変容	山本 真鳥 法政大学

第1日目 5月21日(土) F会場

9:00		登録	
9:40	F-01 〈部落地図〉作成運動の現状と課題—台湾先住民・ブヌンの事例から	石垣 直	東京都立大学
10:00	F-02 台湾における民俗的健康観—小琉球の王爺祭祀を事例として	藤野 陽平	慶応大学
10:20	F-03 台湾回民のエスニシティと宗教—台湾新生清真寺の古跡認定と台湾回民のアイデンティティ・ポリティックス	木村 自	国立民族学博物館
10:40	F-04 台湾漢人社会にみる訃聞広告の資料的価値	上水流久彦	県立広島大学
11:00	F-05 植民地期台湾の青年団における社会的結合と変容—台北州A街の1910-35年	宮崎 聖子	台湾国立中央研究院
11:20	F-06 祭りの興奮が生み出される過程—秋田県角館町、曳山の「かけひき」をめぐって	小西 賢吾	京都大学
11:40	F-07 現代文化を支える他地域のエネルギー—「よさこい」系祭り参加集団のネットワーク性	矢島妙子	名古屋大学
12:00		昼食	
15:20	F-08 ゴスペル歌唱グループの日本的形態—「教会」vs.「教室」	野澤 豊一	金沢大学
15:40	F-09 おとぎ話にみる文化ナショナリズム—雑誌『少年世界』の巖谷小波のおとぎ話分析	柳 宗伸	東京外国語大学院
16:00	F-10 劇中歌「淡海節」の変容—郷土民謡の成立	今井 信	名古屋大学
16:20	F-11 記憶の中の親族—福岡県甘木市K地区の事例から	仲川 裕里	専修大学
16:40	F-12 里山における観光実践—京都府北桑田郡美山町における事例から	堂下 恵	東京大学
17:00	F-13 日本における神話学の発生	平藤喜久子	国学院大学
17:20	F-14 「非非発展主義」	加留 龍	国立民族学博物館／日本学術振興会

第1日目 5月21日(土) G会場

9:00		登録	
9:40	G-01 [分科会] 亡霊と痕跡—身体・記憶・声をめぐるM・タウングとの対話 [代表者] 太田好信		
	報告1 記憶の交差点としての改宗—メキシコのペンテコスタリズムを事例として	古賀喬史	九州大学
	報告2 もうひとつの出産経験の再創造—ラオス・タリアン女性の記憶と語りから	嶋澤恭子	滋賀県立大学
	報告3 回帰する過去と創造性—アメリカ黒人女性の料理本	藤川二葉	九州大学
	報告4 山のキリスト者—「聞書」の成立とフィクション	小尾章子	九州大学
	報告5 弁証法的イメージとしての呪術的身体—ケニア海岸地方のムガンガ(施術師)地位向上運動から	慶田勝彦	熊本大学
	報告6 「文化の所有」を再考する—亡霊の歴史論の試み	太田好信	九州大学
12:00		昼食	
15:20	G-02 『支那農村慣行調査』と『中国農村慣行調査』—《戦時戦地研究》とその戦後	清水 昭俊	一橋大学
15:40	G-03 天津ユダヤ人コミュニティにおける日本占領体験	佐藤泉	東洋学園大学
16:00	G-04 中国青海省黒河上流域における文化変化と環境変化	尾崎 孝宏	鹿児島大学
16:20	G-05 国境周辺における文化復興—南中国のシップソーンパンナー自治州におけるタイ族の古文字復活	ヤーナター イサラ	名古屋大学
16:40	G-06 雲南省徳宏州における漢族文化の位相—徳宏タイ族の国民化をめぐって	長谷千代子	日本学術振興会
17:00	G-07 中国甘肅省の蓮花山花児会における役分担とその変容	徐 素娟	大阪大学
17:20	G-08 公共建築物と村落共同体—西南中国トン族の事例から	兼重 努	滋賀医科大学
17:40	G-09 中国共産党政権下における水上居民の生活の変容—珠江デルタを中心に	長沼さやか	総合研究大学院大学

第1日目 5月21日(土) H会場

9:00		登録	
9:40	H-01 [分科会] 周縁化される他者の身体—帝国医療の諸相 [代表者] 奥野克己・池田光穂		
報告1	医者のみならず、人類学者のみならず—トレス海峡調査におけるW.H.R.リヴァーズと系譜的方法の誕生	山崎剛	南山大学
報告2	他者の病気／病気の他者—植民地における医療と人類学	奥野克己	桜美林大学
報告3	オラン・アスリと「帝国医療」	信田敏宏	国立民族学博物館
報告4	反帝国主義医療—ラオス・ベトナムの境界領域から	西本太	一橋大学
報告5	医療は先住民に役立つのか？—植民地における健康状態・再考	池田光穂	大阪大学
12:00		昼食	
15:20	H-02 混血志向的な統合主義下の競争—カリブ海地域における音楽メディアの役割	倉田 量介	東京工業大学
15:40	H-03 民芸品のポリティックス—メキシコ オアハカ州の民芸品の世界	早瀬 かおり	
16:00	H-04 [分科会] 病気・障害の「予防」をめぐる文化人類学的検討 [代表者] 星野 晋		
報告1	「まちづくり」としての健康づくり—高齢化する日本社会における保健政策の実験と文化人類学の可能性	星野晋	山口大学
報告2	妊娠・出産におけるリスクの構築と産科学の支配	松岡悦子	旭川医科大学
報告3	企業におけるHIV感染予防プロジェクト—個別性と全体性のはざままで	道信良子	札幌医科大学

第1日目 5月21日(土) I会場

9:00	登録	
9:40	I-01 [分科会] 介護の人類学 [代表者] 藤田真理子	
	報告1 「介護」研究における文化人類学の視点とは？	藤田真理子 広島大学
	報告2 柿の葉を摘む暮らし—ノーマライゼーションを越えて	鈴木七美 京都文教大学
	報告3 バリアフリーからフリーバリアへ—新時代を模索した雑誌『視覚障害』の40年	広瀬浩二郎 国立民族学博物館
	報告4 乳がん患者会のリーダーにおけるひとをケアすることの意味—患者会をやって、いちばん得しているのはわたしです	八木彌生 静岡県立大学
11:20	I-02 イヌイトの知識にみる記憶と地名—伝統的な生態学的知識のメカニズムを探る試み	大村 敬一 大阪大学
11:40	I-03 民族舞踊が提示する「我々の暮らし」—アラスカ・チュピック村落の事例	久保田 亮 東北大学
12:00	昼食	
15:20	I-04 [分科会] 日本のセクシュアリティ、ポルノグラフィーの人類学的研究 [代表者] 王向華	
	報告1 神話としての日本のアダルトビデオ—夕樹舞子のアダルトビデオに関する構造的分析	王向華 香港大学
	報告2 「裏本」の歴史と形態学的特質—ある伝統の構築	棚橋訓 東京都立大学／首都大学東京
	報告3 香港における日本人向けホステスクラブの研究	鈴木真由美 香港大学
16:40	I-05 ネパールの家庭内における廃棄物処理と廃棄物に関わる観念—その変遷に見る「ゴミ」の誕生	前田 亜紀 成蹊大学
17:00	I-06 ネパールにおける「ドメスティックバイオレンス(DV)」とその文化的背景—DVシェルターに駆け込む女性たち	幅崎麻紀子 北海道大学
17:20	I-07 ネパール、ブラジャのシャーマンによる魂の旅と「世界」の共有—祖先霊儀礼トンコロンの事例から	橋 健一 立命館大学
17:40	I-08 資源としての民族誌的情報—ビャンスの人々に関する記述をめぐって	名和 克郎 東京大学

第2日目 5月22日(日) A会場

8:30 登録

9:00 A-03 [分科会] 病いとくつながり>の場の民族誌
[代表者] 浮ヶ谷幸代

報告1	病いとくつながり>の場の民族誌	浮ヶ谷幸代	千葉大学／立教大学
報告2	生活技法への集約—精神障害者のための通所授産施設Aを事例として	間宮郁子	千葉大学／明治大学
報告3	コミュニケーション不全の中で成立するくつながり>—外国人・(精神)障害者・健常者を含む福祉施設「ユリノキ村」にて	山本直美	自治医科大学／放送大学
報告4	「補完代替医療をめぐるくつながり>」—病いの経験を通じたくつながり>の再構築	辻内琢也	早稲田大学
報告5	宗教的くつながり>の生成とくつながり>からの離脱—沖縄本島の民間巫者を事例として	佐藤壮広	立教大学／大正大学
報告6	病いのインターネット民族誌—「アトピー」をめぐる苦悩とくつながり>の構築を中心に	余語琢磨	早稲田大学
	コメンテーター	小田亮	成城大学

12:00 昼食

13:00 総会

14:40 A-04 [分科会] 交渉の場としてのメディア—北方先住民の見方／見られ方
[代表者] スチュアート ヘンリ

報告1	カナダ・イヌイトとテレビ—ケベック(ヌナビック)を中心に	窪田幸子	広島大学
報告2	カナダの都市イヌイトによるメディアの利用—モントリオールの場合	岸上伸啓	国立民族学博物館
報告3	イヌイトの選択—カナダ・ヌナヴト準州でのメディア活用の現状とその背景	大村敬一	大阪大学
報告4	文字メディアによる自己発信—北アメリカ先住民の現代文学の動向	室淳子	大阪大学
報告5	カナダの博物館における先住民とのコラボレーションの変遷—B.C.州のファースト・ネーションズを中心に	齋藤礼子	北海道立北方民族博物館
報告6	イヌイトを展示する—4つの博物館の比較考察	スチュアート ヘンリ	放送大学

第2日目 5月22日(日) B会場

8:30 登録

9:00 B-07 [分科会] 人類学的移民・難民研究の実践と理論的課題
[代表者] 芹澤知広

報告1	移民・難民の連続性と「難民」カテゴリーをめぐる問題—香港のベトナム難民の事例から	芹澤知広	奈良大学
報告2	国境をめぐる民族の肖像—隣接する国民国家における家族史研究の事例から	谷口裕久	龍谷大学
報告3	移民と難民が錯綜する生活世界—インド・デリーのベンガル人コロニーを事例として	中谷哲弥	奈良県立大学
報告4	教会のアジール／国家のアジール—ドイツにおいて難民・地域社会・国家の界面で行われる実践	小田博志	北海道大学
報告5	移民研究からみた難民研究—イタリア在住フィリピン人の事例を中心に	長坂格	新潟国際情報大学
	コメンテーター	栗本英世	大阪大学

11:00 B-08 上座仏教社会における男女関係と女性にとっての精霊祭祀—上ビルマ農村における雨乞い儀礼の事例から

飯國有佳子 総合研究大学院大学

11:20 B-09 北タイ・チェンマイの霊媒カルトにおける伝統の再構築

福浦 一男 京都大学

11:40 B-10 現代上座部仏教社会の「アラハン」—タイにおける「聖人化」のプロセス

藏本 龍介 東京大学

12:00 昼食

14:40 B-11 [分科会] 自文化人類学の可能性—“日本人”人類学者による日本研究の現在
[代表者] 沼崎一郎

報告1	問題提起	沼崎一郎	東北大学
報告2	さまよえる「日本女性」—英語博士論文から日本語単行本まで	加藤恵津子	国際基督教大学
報告3	やまとんちゅとうちなんちゅの狭間で—ドクサの実践としてのフィールドワーク	青柳寛	国士舘大学
報告4	自社会における現地人類学者の立場を再考する—「ひきこもり」フィールドワークを通して	堀口佐知子	オックスフォード大学
報告5	調査者／非調査者の関係性とエスノグラフィー—コスプレ少女研究を事例として	牛山美穂	早稲田大学
報告6	自文化と異文化のはざまの人類学—トランスナショナルな日本と“日本人”人類学者	小野真由美	東京大学
	コメンテーター	桑山敬己	北海道大学
	コメンテーター	ドナルド・ウッド	秋田大学

第2日目 5月22日(日) C会場

8:30 登録

9:00 C-08 [分科会] システムが稼動するときローカルな活動から見た技術・制度・知識
[代表者] 森田敦郎、モハーチ・ゲルゲイ

報告1	技術移転の異種混交性とコーディネーション—タイ地場工業の発展における人間・機械・制度のネットワーク	森田敦郎	東京大学
報告2	伝統産業の再編成—ウズベキスタンにおける陶器・陶工・制度の複合	菊田悠	東京大学
報告3	自己測定される国民の病—日本の糖尿病指導にみる身体と技術の相互性をめぐって	モハーチ・ゲルゲイ	東京大学
報告4	保健制度と伝統医療の狭間で—モロッコにおける出産の医療化と住民たちの選択をめぐって	井家晴子	東京大学
報告5	福祉の制度とブリコラージュ—フィンランド高齢者福祉におけるコミュニティ資源の活用過程	高橋絵里香	東京大学
報告6	公共政策の狭間、普通学級に在籍する障害児という陥穽—人類学の分析単位をめぐって	猪瀬浩平	東京大学／日本学術振興会

11:20 C-09 文化的身体の変容のプロセス—日本人による先住ハワイアン文化的身体習得過程の分析から

古賀まみ奈 東京大学

11:40 C-10 ハワイにおける日本の70年代特撮ヒーロー番組のリバイバル—世代アイデンティティの商品化とその消費

勝野 宏史 ハワイ大学、マノア

12:00 昼食

14:40 C-11 フィジーにおけるソロモン諸島移民と土地所有権—ヴィティレヴ島西部のS集落、N集落の事例を中心に

丹羽 典生 日本学術振興会

15:00 C-12 生態移民政策に対する当事者の視点—中国甘肅省肅南裕固族自治県祁豊区B郷を例に

中村 知子 東北大学

15:20 C-13 移住と定着からみた集団の生成過程—北タイ国境の雲南人の事例から

王 柳蘭 京都大学

15:40 C-14 南アジア系移民のヒンドゥー教における知識の再生産—ビルマの事例から

中井 潤子 総合研究大学院大学

16:00 C-15 フィリピン・サマル島民のマニラ移住過程—人の移動と都鄙関係の推移を中心に

細田尚美 京都大学

16:20 C-16 ミッション・ロープの変容にみるアジア系移民と先住民女性—ベトナム人による文化変容、「着用の場」の峻別化

中村純子 横浜商科大学

第2日目 5月22日(日) D会場

8:30	登録	
9:00	D-15 [分科会] アイヌ文化の基礎的資料の記録と活用 [代表者] 岡田淳子	
	報告1 アイヌ文化の基礎資料としての海外アイヌ文化財	小谷凱宣 南山大学
	報告2 海外アイヌ資料との比較検討	古原敏弘 アイヌ民族文化研究センター
	報告3 海外と国内資料の比較調査	津田命子 北海道立アイヌ総合センター
	報告4 考古学に見る中近世アイヌ文化の基礎資料	岡田淳子 北海道東海大学
10:40	D-16 沖縄における「セクシャル・ライツおよびプロダクティブ・ヘルス」問題—近代法とアイデンティティーのはざままで	宮下 克也 北里大学
11:00	D-17 沖縄県・小浜島と竹富島におけるジェンダー規範の変容過程—「実践理論」を適用したジェンダー研究の試行	加賀谷真梨 お茶の水女子大学
11:20	D-18 トーライ社会における貝貨タブの様々な形態とその計量方法	深田淳太郎 一橋大学
11:40	D-19 パプアニューギニア、テワードにおける世帯の形成原理	田所 聖志 東京都立大学
12:00	昼食	
14:40	D-20 南フランスの伝統的祝祭とそのリバイバル—フランス農村世界における都市支配と文化的自律性の終焉	出口 雅敏 早稲田大学
15:00	D-21 現代フランスにおける「ピエ・ノワール」の一組織—その活動の意味と戦略	足立綾 東京大学
15:20	D-22 南ドイツにおける地域社会と同好会	山田 香織 総合研究大学院大学
15:40	D-23 文化遺産を担う、もう一つの主体像 —スペインの世界遺産に関わるボランティア・アソシエーションの事例から	竹中 宏子 お茶の水女子大学
16:00	D-24 イタリア、ミラノにおけるデザイナーの職業的社会化—イタリアのものづくり	祐川 良子 東京大学

第2日目 5月22日(日) E会場

8:30		登録	
9:00	E-14 「人権」に対する人類学的貢献	佐藤純子	東京大学
9:20	E-15 霧社事件以後:事件に対する認識とアイデンティティから語る	宋 秀環	龍華科技大学
9:40	E-16 サイバースペースの人類学—「非—場所」性を手がかりに	千田 啓之	北海道大学
10:00	E-17 経営学はいかに消費されるか—日本のIT企業の事例より	市野沢潤平	東京大学
10:20	E-18 クライシス(取引先倒産危機時)のカンパニーグラフィ—「与信管理」の経営人類学的研究	中畑 充弘	明治大学
10:40	E-19 持続可能な基礎的自治体の事業—日本の「公設公営助産所」を事例として	中山まき子	同志社女子大学
11:00	E-20 日本における公的扶助と私的扶養—親族扶養の法的規範と公的扶助との関連	常数英昭	早稲田大学
11:20	E-21 Deaf Communities on the Move—ろう者研究の新しいパラダイム	亀井 伸孝	関西学院大学
11:40	E-22 葬儀屋さんになる—非=医療の現場における死の構築の探求	田中 大介	東京大学/日本学術振興会
12:00		昼食	
14:40	E-23 ドナーの身体をめぐる記述の競合—ドナー家族の語りから	山崎 吾郎	大阪大学
15:00	E-24 現在日本における男性同性愛のタイポロジー—このメディア化された表現	ローラン・エリック	岐阜経済大学
15:20	E-25 HIV/AIDSをめぐる科学的知と予防実践する身体—日本におけるある地方都市の「男性同性愛者」の事例から	新々江章友	筑波大学/日本学術振興会
15:40	E-26 病気カテゴリーとしての肥満—現代社会における「医療化」概念再考	碓 陽子	東京大学
16:00	E-27 「ハンセン病回復者」のライフストーリーと療養所コミュニティ	小杉真智子	北海道大学
16:20	E-28 精神の病い/感情の病い	倉田誠	神戸大学/日本学術振興会

第2日目 5月22日(日) F会場

8:30		登録	
9:00	F-15 Ph. F. von シーボルトのアイヌ資料—ライデン国立民族学博物館所蔵品を中心に	山崎 幸治	名古屋大学
9:20	F-16 「近代」とアイヌの視座—鳩沢佐美夫をめぐって	木名瀬高嗣	日本学術振興会
9:40	F-17 インドネシア・リアウにおけるtanah wilayahの変容—焼畑移動の記憶と土地所有	増田 和也	京都大学
10:00	F-18 インドネシア・フローレス島における親密性とその変容	青木恵理子	龍谷大学
10:20	F-19 「仏教寺院」か「中国寺院」か?—ジャワにおける「華人性」のひとつの表れとその検討	津田 浩司	東京大学
10:40	F-20 インドネシア・スダラの食文化に関する言語人類学的研究—インフォーマルな共食の機会の理想認知モデルとメトニミー	阿良田麻里子	総合研究大学院大学
11:00	F-21 儀礼の一部としての役割を担うガムラン音楽—インドネシア・バリ島ブレレン県ブンクララン村の事例より	真崎 恵子	京都大学
11:20	F-22 住民組織の活動と公共空間—エチオピアのグラゲ道路建設協会	西 真如	京都大学
11:40	F-23 民族を越える職能集団のネットワーク—エチオピア西南部の鍛冶職人の移住を事例として	村橋勲	京都大学
12:00		昼食	
14:40	F-24 身体技法にみるテクノ・ライフヒストリー—エチオピア西南部アリ女性職人の土器づくり	金子 守恵	京都大学
15:00	F-25 ケニア・ルオ村落における壺づくり—女性たちによる「土」資源の活用	椎野 若菜	青山学院大学
15:20	F-26 ケニア寄宿制プライマリ塾学校の生徒の経験	古川 優貴	一橋大学大学院／ 日本学術振興会
15:40	F-27 「伝統医療」の現在—北カメルーン・ボリの事例を通して	神谷 良法	名古屋大学
16:00	F-28 カメルーン東南部、狩猟採集民バカ・ピグミーの民族植物学—植物をめぐる知識の性差・個人差についての一考察	服部 志帆	京都大学
16:20	F-29 聖霊と身体—ガーナ南部におけるフェイス・サルベーション教会の実践	石井 美保	京都大学